新編　京都一周トレイルを歩く【4】　2023.12.04 更新

北白川からケーブル比叡

京都府山岳連盟トレイル委員会

バプテスト病院入口
標識東山№54

北白川仕伏町バス停前バス誘導員詰所のトイレは、住民のご厚意で京都一周トレイルコース利用者は借用出来るが、必ず一言断って利用して欲しい。バプテスト病院道入口の標識東山 54 を右折し、病院への坂道の掛かり、標識東山 55 から右に分岐する駐車場への道に入る。往古この道は白川にあった関所の抜道であった。

バプテスト病院駐車場を通り抜け山道に入ると、標識東山 56-1 で左の大山祇神社（地竜大明神）への参道を行く。谷沿いの道も行けるが足元が悪い。大山祇神社境内を通り抜け再び沢筋に出る。

標識東山 56-1
大山祇神社参道

大山祇神社裏手すぐの標識東山 56-2 で、左の尾根を登り「茶山」「瓜生山」を経る新道と、メタセコイアの大木のある標識東山 57 を経る旧道が分岐するが、新道・旧道は標識東山 60 で合流する。

新道は瓜生山からの緩やかな支尾根を登る。登りついたコブが東山三十六峰の一つで標識東山 56-3「茶山」である。西への踏跡は途中の鞍部分岐から北白川通りの「京都造形芸術大学」にも降れるが、倒木が多く勧められない。鞍部分岐から降りずコブを超し南下すると、バプテスト病院の裏の道から照高院宮址を経て御蔭通りに降りる。

大山祇神社

トレイルコースは「茶山」から右方面への尾根をたどる。100 ㍍ほどで左手の谷を巻くように降る分岐は、「石川丈山の墓」を経て「一条寺下り松」へと降りる。標識東山 57-1 から直進する急坂を登る踏跡は、瓜生山城二の丸跡を経て、標識東山 59-1 でトレイルコースと合流し瓜生山に至る。

標識東山 56-3　茶山

トレイルコースは標識東山 57-1 から右の分岐を進む。大きな岩に出会うと、その下が「白幽子旧跡」標識東山 58-1 で、一段下の凹地には井戸の跡が残っていたが、残念だが現在は倒木で完全に塞がれている。

標識東山 58-1
白幽子巌居旧跡

白幽子と呼ぶ仙人は臨済宗白隠禅師の「夜船閑話」に紹介されている実在の人物である。この地で白隠禅師が白幽子に病の治療を受けたという。

ことわざに「白川夜船」があるが、行きもしないで京見物をしてきたと称する人が、白川のことを聞かれ「夜船でぐっすり寝ていたので覚えていない」と答えて嘘がばれたという故事から、ぐっすり寝込んで何も覚えていな

いことをいう。白川には船が浮べられるような川は存在しない。

「白幽子旧跡」上の標識東山 58-2 からしばらく登ると、白川石を切り出した清沢口石切場跡がある。この周辺にはかって多くの良質の白川石を切り出す石切り場があった。現在は倒木で通行不能だが、「白幽子旧跡」を少し下がると、その名残である石造物や運搬途中らしき石材が残っている。

白川の男は石切り場で働き、女は白川砂が花の栽培に適していたことから、花を栽培し絣の着物に前垂れの独特の装束で洛中に花を売り歩いた。また御所に花を献上することで、独特の朝廷認可の地位を獲得していたのである。彼女たちを白川女という。

標識東山 59-1 の支尾根分岐に登りつき、右折すると標識東山 59-2 で、左から合流するのは瓜生山の北山麓にある「狸谷不動」からの三十六童子巡礼道である。ここから瓜生山頂上まで道端に点々と三十六童子の小祠をみる。　登り詰めた広場が標識東山 59-3 の東山三十六峰瓜生山。将軍山、白川山、城山とも言う。

祇園八坂神社の祭神牛頭天王は祇園に移る前にまずこの山に降臨されたという。牛頭天王は生来「きゅうり」を好まれたところから、「きゅうり」の神様が現れたので「瓜生山」と呼ぶようになったという伝承がある。。ちなみに祇園さんの紋様も「きゅうり」の輪切りである。瓜生山は瓜生山城、北白川城ともいう室町時代の城跡で、比叡山延暦寺の足元でもあり、近江への出入口にある要害にあたり、京の都を戦乱の巷とし荒廃しつくした応仁の乱の重要な戦場ともなった。「長亭記」「応仁記」などの歴史書には何代もの将軍が何回もこの城に拠った記録がある。重要な瓜生山城の水源は山頂の東側直下の沢源流で、今でも涸れず緑色の水を溜めている。

また山頂の岩窟には鎧兜姿の地蔵様が祀られており、勝負事に御利益があり人々の信仰を集めていたが、宝暦十二年というから今から二百五十年程前になるか、参詣に不便ということで下の方に移され、頂上「幸龍大権現」祠堂の裏手の岩窟には、地蔵尊らしき代わりの石像が祀られている。

標識東山 59-3 は祠堂の脇から左手に下るトレイルコースを指示している。標識東山 59-4 から左に少し進み、再度左下に一段下れば「狸谷不動」からの三十六童子巡礼道に降れる。

狸谷不動院。開山は比較的新しく、元々、古くからの修験道の行場があったらしいが、明治初期の廃仏毀釈で衰退したものを、昭和十九年、修験道大本山一乗寺狸谷山不動院として再興されたものと由緒書にある。

次いでトレイルコースは標識東山 59-5 でも右に分岐するが、直進すれば曼殊院、武田薬品農場にも下れるが、迷うところもあり勧められない。トレイルコースは標識東山 59-5 の先で倒木で完全にふさがれている。倒木の根元を超えることも可能だが、右上の尾根に安全な迂回コー

スが整備されている。迂回後にまもなくルートは標識東山 60 で旧トレイルコースと合流する。

標識東山 56-2 に戻りトレイル旧コースを案内する。沢筋を詰めると、沢の分岐地点にあるメタセコイヤの大木の脇に標識東山 57 がある。以前はここから直進して「白幽子旧跡」に至るコースが新道であったが、コースの両岸の崩落が激しく、安全な大山祇神社裏手すぐの標識東山 56-2 から支尾根を行き、標識東山 56-3「茶山」から「白幽子旧跡」に至るコースに変更されている。

トレイル旧コースは標識東山 57 の右の沢沿いに登る。沢にある古い取水設備の残骸は、以前に現バプテスト病院の敷地にあった島津源蔵（島津製作所や旧ＧＳ日本電池の創始者）屋敷への配水設備の名残である。この配水管は白川天神まで敷設されていて一部は今も使用されているという。トレイル旧コースは一部の岩盤場所の登りで、逆コースを取り降りとなる場合以外は危険な箇所は無くなった。

急傾斜を登りきると、道の両崖が岩で狭まった場所が標識東山 58 である。ここは「谷の略奪地形」で、元々の谷は急傾斜のトレイルコースのある谷を流下していたが、固い岩盤に阻まれ、長年の侵食により南の山中越にある白川へ流れるようになったらしい。

標識東山 58 から谷は穏やかな流れとなり、コースは平地を歩くようになるが、2021 年の集中豪雨により沢が氾濫し危険な個所は無いが、一部で登山道が破損し沢に降りるような場所もあるので、注意して歩行したい。標識東山 59 の谷の分岐は左に向かい谷の詰めを登ると、標識東山 60 で瓜生山(294.3m)からの新コースと合流する。

鞍部にある標識東山 60 から少し登ると、標識は無いが右に下る分岐は、無動寺川から身代わり不動（地蔵谷不動院）に降る「北白川史跡と自然の道」の回遊路である。また、標識東山 63 からの分岐を下れば、無動寺川から比叡山ドライブウエイの一本杉に至る比叡アルプスへの登り口に取り付ける。比叡アルプスは比叡山の他コースと異なり、花崗岩の風化したアルペン的な登下降が楽しめる。

標識東山 61 は白鳥山展望台（瓜生山城出丸）への分岐であるが、現在は樹木が生長し展望は望めない。瓜生山から標識東山 66 から分岐する「てんこ山」まで、点々と瓜生山城の出丸跡が続く。標識東山 64 で左に分岐する林道は途中で相当に痛んでいるが、曼殊院、武田薬用植物園に下ることが出来る。

標識東山 65 までは緩いようで結構の登りである。標識は無いが途中に小さなコブを越すルートと、右に迂回するルートがあるが先で合流する。小さな峠を越して降ると、標識東山 65 であるが、左に下る林道は曼殊院に降るが、途中で大きく崩落しており通行不能である。

武田薬用植物園は、絶滅危惧種を含む重要な薬用・有用植物を中心に、約 2,600 種の植物を保有・栽培しており、「生きた薬草の博物館」といわれている。通常は一般公開していないが、年に数回の研修会が開かれ、事前申し込みにより少人数のグループのみ見学が可能である。曼殊院は天台門跡寺院で、最澄が比叡山山上に草創した坊がその起源とされ、当初、現金閣寺の近くの北山に別院を建て寺号は「曼殊院」と改めた。しかし、足利義満により　北山殿（鹿苑寺一金閣寺）造営のため移転を余儀なくされ、京都御苑内に移転したが。その縁で明応四年頃、後土御門天皇の猶子である慈運法親王が門主として入寺し、門跡寺院としての地位が確立した。その後、

標識東山 67 石鳥居前広場

九輪草の群落

音羽川本流渡渉丸木橋

音羽川支流渡渉地点整備

音羽川支流標識 68 地点

標識東山 69
水飲対陣跡碑

良尚法親王が東山山麓の現在地に移し寺観を整えた。現存する大書院（本堂）、小書院などはこの頃の由緒あるものである。

標識東山 65 の背面が始端となる小尾根の踏跡を辿れば、「てんこ山」（442.5m　三等三角点、点名・掛橋）に至る。北麓一乗寺の土豪渡部氏の築いた古い「一乗寺山城跡」で、今でも空堀、井戸跡、土塁が確認できる。展望も無く登る人もあまり無い静かな三角点である。

トレイルコースは標識東山 65 から続く狭い切り通しを登ると、山道は林道に変わる。

林道の標識東山 66 から、北に分岐する林道跡を登り、尾根の切り通しから左壁を登っても「てんこ山」三角点は近い。標識 66 から標識 67 途中に「城」と書いた地名板がある。薄い踏跡を尾根に登りつき右へたどっても良い。

この辺り大文字山と比叡山の間は「丹波帯」の地層と違い、花崗岩（御影石）が露出している。
地下深くにあった高温の溶けたマグマが上の「丹波帯」の堆積岩を融かしながら上昇し、数百万年掛って固まった火成岩で深成岩と呼ばれる。その後、数千万年の間に上を覆っていた堆積岩が侵食されて、今では地表に露出してしまっている。この辺り道路西側（左側）には風化した花崗岩の崖が続いており、気をつけて見るとその一部に花崗岩とは違った板状の岩がほぼ垂直に立っている。これは花崗岩の割れ目に、あとからマグマが入ってきて出来たもので「岩脈」と呼ばれている。冷えるのが花崗岩よりも速かったため、鉱物の種類は石英・長石などほぼ同じだが、粒が細かく花崗岩より硬いので侵食されにくく突き出ている。この「岩脈」は「白幽子旧跡」の右側の岸壁にもみられる。

標識東山 66 から水平の林道を進むと、石の鳥居のある標識東山 67 で、近年に音羽川の上流に砂防ダムが建設されたときの、作業道路終点が整備され明るい広場となっており、絶好の昼食場所でもある。このあたり古くから「掛橋」という。

石の鳥居の手前で林道から左に折り返すように、一段上の送電鉄塔に登れば芝生のミニ広場で、北西方面の展望が良い。この尾根の踏跡をたどって、林道切り通しを超えても「てんこ山」三角点に至る。

5 月連休以後に、標識東山 67 広場の先で左に下る林道を行けば、堰堤の上の砂州に九輪草の群落がみられる。他にも音羽川上流には九輪草の群落が散見する。

赤山禅院参道

東山 69 上部の展望地

浄利結界と首無地蔵

標識東山 71 付近の展望

千種忠顕卿戦死の地

標識東山 73-1 付近

広場から折り返すように、鳥居を潜り右下に降る道が地蔵谷で、山中越の身代不動尊に至るが、途中かなり道は荒れており、大雨後は谷下流の堰堤が溢水し道が冠水することが多い。

鳥居から右手の尾根に登る踏跡を辿ると、比叡アルプスの尾根と合流する。合流地点で分岐を右に下れば山中越の身代不動尊に降り。左に尾根を登れば登仙台を経て一本杉に至る。

トレイルコースは標識東山 67 から左の杉林の中の急坂を下り、音羽川を渡渉する。かっては関電巡視路の鉄骨歩道橋が架かっていたが、1972 年 9 月の台風で流出した。この台風では下流の修学院地域は大水害に見舞われている。音羽川渡渉地点下流 500m 付近から修学院地域まで、水害以後に建設された巨大な砂防堰堤が連なっていることはあまり知られていない。

現在は上流に砂防ダムが完成したため、よほどの大雨の後で無い限り渡渉できる。雨台風の後は流出することが多かったが、現在はトレイル委員会の手で頑丈な丸木橋が架橋してある。

標識東山 67 を降ると音羽川本流と二本の支流の沢を渡渉するが、2021 年の集中豪雨により支流の沢上流が大規模に崩落した。現在沢渡渉部は整備されたが、標識 68 の沢は常に崩落の危険性があり、標識 68 の沢が渡渉不能の場合は、手前か一つ手前の小尾根を辿れば、標識 72 と 73-1 の中間地点でトレイルコースに合流できる。

標識東山 69 が南北朝時代の遺跡の水飲対陣跡である。南北朝の昔 1336 年、足利尊氏に追われた後醍醐天皇が比叡山に逃れ、近臣千種忠顕卿が足利軍を迎えて陣を張った跡で、千種忠顕卿奮戦の地である。左手から合流する道が修学院から登る有名な雲母坂（キララ坂）で、源平時代の雄、後白河法皇をして「ままならないものは加茂の流れと叡山の僧兵」と嘆かれた叡山の荒法師が、坂本日吉大社の神輿を奉持して駆け降りた歴史の道である。修学院離宮の裏手を通るが、現在は深い雨裂のため狭い渓谷状となり昔を思うよすがもない。

標識東山 69 の十字路を直進し、梅谷に下る道は雨裂で荒れてはいるが赤山禅院（せきざんぜんいん）へ通じる良いエスケープ道である。

赤山禅院は比叡山、天台宗延暦寺の別院の一つ。本尊は泰山府君（赤山大明神）。俗に言えば閻魔様の横で罪人の罪状を記録する書記である。また、陰陽道を司るということから、能筆家の小野篁が夜な夜な六道珍皇寺の井戸から地獄に通い、書記のアルバイトを務めたという伝説も生まれた。赤山禅院は京都御所から見て表鬼門の方角（東北）に当たるため、方除けの神として古来信仰を集めてい

標識東山 73-2 付近

る。拝殿の屋根の上には、御所の東北角・猿ヶ辻の猿と対応して、御幣と鈴を持った猿が安置されている。

延暦寺の千日回峰行においては、そのうち百日の間、比叡山から雲母坂を登降する「赤山苦行」と称する荒行がある。これは、赤山大明神に対して花を供するために、毎日、比叡山中の行者道に倍する山道を登降するものである。境内の福禄寿殿が「都七福神」の一つとされている。また、紅葉の名所でもある。

標識東山 73-3 行者道分岐

水飲対陣跡の標識東山 69 を少し登ると、一乗寺から北山方面の好展望の場所がある。しばらく登ると右手の路傍に無残にも首が欠け、変わりに小石を載せた地蔵さまがある。その奥に比叡山浄域と俗界を分ける浄刹結界跡の碑が立っている。かっては深い笹の中に埋もれていたが、今は明るい広場になっている。

やどり地蔵

標識東山 70 では、砂礫の路面にステップが細かく刻んである。山側の崩落が激しくコースが狭くなっているので注意したい。標識東山 70 の標柱から折返すように降る踏跡は、梅谷の北側の尾根を降り、山麓近くで梅谷に合流する。

標識東山 71 は展望は西側だけであるが、木立の中の格好の休憩場所である。標識東山 71 から奥へ続く踏み跡を北方上部へたどっても、急坂と倒木で道は荒れてはいるが標識東山 73-1 でトレイルコースと合流する。

やどり地蔵前の展望

標識東山 72 の分岐は直進するのが本来のコースであるが、左へ登る踏跡は、千種忠顕卿の戦死之地碑を経て標識東山 73-1 でトレイルコースと合流する。

標識東山 73-1 は十字路となっており、植林の中の気分の良い休憩場所であったが、2018 年の台風 21 号の猛威は付近を倒木の墓場と化した。現在は倒木処理が済み穏やかな風情だが、その惨状は筆舌に尽くし難く、その名残は十二分に味わえる。

ケーブル駅前広場

ここでコースは二つに別れるが、どちらを取ってもケーブルの終点駅に出る。標識東山 73-1 から直進する本来のトレイルコースを登ると、ケーブルの終点駅に出る。

叡山ケーブル

右のルートは杉の植林中の急坂を登る行者道で、標識東山 73-3 の分岐を左に植林帯を抜けると、すぐに無線中継所の下で「やどり地蔵」を背にして好展望が開ける。標識東山 73-3 を直進するのは行者道で、旧スキー場上部から、ガーデンミュージアム比叡、四明岳、頂上駐車場、大比叡頂上への近道である。

標識東山 74 ケーブルの終点駅の周辺は絶好の展望場所で、京都の市街が一望できる。厳冬期の晴天の朝には、対面する西山の老ノ坂峠から、亀岡盆地に発生する霧が滝状となり流下する

のを見られることがあり、圧巻の眺めである。しかし正午近くなると靄がかかり、西山の山々はうっすらと煙って見えることが多い。

北白川から比叡山を経て大原戸寺へのトレイルコースは、時間が無い場合や、初心者、高齢者は無理をしないように、出来ればこの区間を二回に別け、標識東山 74 を終着点としケーブルを利用して下山。区間後半はケーブルを利用して登り、この地点を始点とするのが良い。

※叡山ケーブルは　例年冬季（十二月一日～三月十九日）の期間は運休。正月三ヶ日は運行
叡山ケーブルの運行期間、運行時間問合わせは　京福電鉄「075-841-9381」

※京都駅発-比叡山行バス便は　冬季（十二月一日～三月二一日）の期間は運休
バス便運行期間、運行時間問合わせは　京阪バス「075-581-7189」

「所要時間参考」

北白川仕伏町バプテスト病院道分岐東山 54（5 分← →5 分）大山祇神社標識東山 56-2 分岐(15 分← →20 分)茶山標識東山 56-3（5 分← →5 分)「白幽子旧跡」標識東山 58-1(15 分← →20 分)瓜生山標識東山 59-3（15 分← →10 分）～東山 60 分岐(15 分← →20 分）一乗寺林道東山 64（45 分← →60 分）石鳥居東山 67(25 分← →25 分）水飲対陣東山 69 (35 分← →55 分)～東山 73 分岐(行者道経由（15 分← →20 分)ケーブル比叡駅

※大山祇神社標識東山 56-2（10 分← →10 分)メタセコイヤ東山 57（20 分← →30)東山 60 分岐

※東山 73 分岐（旧道経由 10 分← →15 分)～ケーブル比叡駅東山 74

《北白川仕伏町東山 54 瓜生山経由(3 時間 10 分← →4 時間）ケーブル比叡駅　（ 5.8 ㎞ ）》
《北白川仕伏町東山 54 旧道経由(2 時間 45 分← →3 時間 40 分）ケーブル比叡駅（ 5.8 ㎞ ）》

北白川～ケーブル比叡間のトレイルコース記載の地図は「京都一周トレイル 東山」です。
地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは
京都市産業観光局　観光 MICE 推進室（TEL075-746-2255）
kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/　京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください